

仙台城 now !

発行

仙台市教育委員会文化財課

仙台城史跡調査室

令和4年6月24日【創刊号】

仙台城跡の被災状況と復旧について

令和4年3月16日に発生した福島県沖地震によって仙台城跡の本丸北西石垣や酉門石垣が崩落した他、その他の石垣の変形や土塀の亀裂など多くの被害が出ました。また今回の地震によって、令和4年度に復旧予定だった、令和3年2月13日の福島県沖地震によって被災した石垣や土塀への被害も拡大しました。



①崩落した本丸北西石垣

仙台城跡は、国指定史跡となっているため、国の現状変更許可を得ずに石垣や土塀などを復旧することができません。有識者で構成される仙台城跡調査・整備委員会や文化庁の指導の下で復旧する必要があります。

東日本大震災によって被災した仙台城跡の復旧には約4年を要しました。今回の復旧事業では、過去に記録した復旧のデータを活用することはできますが、少なくとも3年を要することを見込んでいます。ご迷惑をお掛けしますが、ご理解・ご協力をお願いいたします



②崩落した酉門石垣



③変形した清水門石垣



④変形した中門石垣



⑤大手門北側土塀の漆喰亀裂

仙台城跡の被災概要

場所	概要
①本丸北西石垣	崩落：約16m、変形：約105m、石垣に面する市道に亀裂
②酉門石垣※	崩落：約12m、変形：約30m
③清水門石垣	変形：約4m
④中門石垣※	変形：北石垣40m・南石垣22m
⑤大手門北側土堀・石垣※	漆喰 <small>しっくい</small> 亀裂多数

※②、④、⑤は令和3年2月の福島県沖地震による被害を含む

史跡仙台城跡整備基本計画について

史跡仙台城跡整備基本計画とは、仙台城跡を整備するために令和3年3月に策定された長期計画です。この計画では、伊達政宗が「仙台」と名付けた場所である仙台城跡を城郭らしく整備することで、より地域の人々に誇りや愛着を持ってもらうことをコンセプトにしています。そのために重要なのが、「“政宗ビュー”の実現」です。「政宗ビュー」とは、かつて伊達政宗や代々の藩主が城下を見下ろ



広瀬川対岸からの整備イメージ

した場所である、仙台城本丸跡からのながめをよりよくすることと、仙台城が本来の地形や石垣など自然と調和した状態で市街地から見えるようにすることの両方を示しています。現在、仙台城本丸跡からの市街地の眺めは一部確保されていますが、市街地からは草木が繁茂し城郭らしくみえません。江戸時代の城郭は、城下の人々からその形がはっきりと見えるように、草木がありませんでした。そこで仙台市教育委員会文化財課では、仙台城跡の草木の状況を確認し、これらを管理して景色をより良くするための計画(植生修景計画)をつくり、「政宗ビュー」の実現を目指していきます。